

平成27年度行政事業レビューシート ( 総務省 )

<b>事業名</b>	次世代ITSの確立に向けた通信技術の実証			<b>担当部局</b>	総合通信基盤局			<b>作成責任者</b>
<b>事業開始年度</b>	平成26年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	平成27年度	<b>担当課室</b>	移動通信課新世代移動通信システム推進室			室長 中村裕治
<b>会計区分</b>	一般会計			<b>政策・施策名</b>	V-4 情報通信技術利用環境の整備			
<b>根拠法令(具体的な条項も記載)</b>	総務省設置法 第四条第七十六号			<b>関係する計画、通知等</b>	「日本再興戦略」改訂2015(平成27年6月30日閣議決定) 世界最先端IT 国家創造宣言(平成27年6月30日閣議決定)(改定) 科学技術イノベーション総合戦略2015(平成27年6月19日閣議決定)			
<b>主要政策・施策</b>	科学技術・イノベーション、交通安全対策、IT戦略			<b>主要経費</b>	その他の事項経費			
<b>事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	交通事故による死傷者数は、近年減少傾向にあるものの、依然として深刻な状態にある。安全・安心で快適な交通社会を実現するためには、既存技術を更に高度化して事故を防ぐこと等が必須であるため、従来の自動車単体での運転支援に加え、車と車、車と人等をつなぐ高度な無線通信技術を活用した安全運転支援システムの早期実用化を目的とする。							
<b>事業概要(5行程度以内。別添可)</b>	本事業では、実用環境を想定したテストコース等での総合検証を通じて、車車間通信技術等を活用した安全運転支援システムの早期実用化に必要な検討課題の抽出・検証を行い、実用サービスが十分機能できるよう通信の信頼性、相互接続、セキュリティ機能を確保・考慮した通信プロトコルを策定する。							
<b>実施方法</b>	委託・請負							
<b>予算額・執行額(単位:百万円)</b>	予算の状況	当初予算	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求	
		補正予算	-	-	0	0		
		前年度から繰越し	-	-	0	0		
		翌年度へ繰越し	-	-	0	0		
		予備費等	-	-	0	0		
		計	0	0	210	100	0	
	執行額	-	-	201				
	執行率(%)	-	-	96%				
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標	単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 27年度	
	プロトコルの策定	策定した通信プロトコル数	成果実績	規格	-	-	-	
			目標値	規格	-	-	1	
			達成度	%	-	-	-	
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載							<input type="checkbox"/> チェック	
<b>活動指標及び活動実績(アウトプット)</b>	活動指標	単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込		
	技術課題数	活動実績	件	-	-	3		
		当初見込み	件	-	-	3	2	
<b>活動指標及び活動実績(アウトプット)</b>	活動指標	単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込		
	報告書、ガイドライン等	活動実績	件	-	-	1		
		当初見込み	件	-	-	1	1	
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠	単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込		
	当該年度の執行額/当該年度の技術課題数	単位当たりコスト	百万円	-	-	67	50	
		計算式	百万円/件	-	-	201/3	100/2	
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠	単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込		
	当該年度の執行額/報告書、ガイドライン等	単位当たりコスト	百万円	-	-	201	100	
		計算式	百万円/件	-	-	201/1	100/1	

平成27・28年度予算内訳 (単位:百万円)	費目	27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由
	情報通信技術研究開発調査費	100	-	平成27年度をもって事業終了
計	100	0		

**事業所管部局による点検・改善**

		項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性		事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	安全・安心で快適な交通社会を実現するための安全運転支援システムは今後、さらに普及していくと予想され国民の生活にかかせないものになってきている。通信技術の更なる高度化による交通事故の防止は必須である。
		地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	車車間通信技術等を活用した安全運転支援システムの実用サービスが十分機能できるよう、通信の信頼性、相互接続、セキュリティ機能を確保・考慮した通信プロトコルを策定することは、自治体や民間に委ねることはできず、国が優先度の高い事業として自ら実施すべきものである。
		政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	安全運転支援システムの更なる高度化のために、通信の信頼性、相互接続、セキュリティ機能を確保・考慮した通信プロトコルの策定は必要であり、優先度は高い。
事業の効率性		競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	支出先の選定に当たっては、一般競争入札など競争性が確保される方法で実施する予定。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	○	国が策定した通信プロトコルをもとにメーカーが機器を開発し、それを受益者たる国民が費用を出して購入するため、負担関係は妥当。
		単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	一般価格競争や見積もりを行い、市場価格を反映しているため妥当であると認められる。
		資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	通信プロトコル策定に必要な費目、用途に限定されている。
		不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
事業の有効性		成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか	○	平成26年度実績について、見合ったものとなっている。
		事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	他の手段(随意契約)と比べ、一般競争入札にて契約していることにより、低コストで実施できている。
		活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	技術課題等見込みに見合っている。
		整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	民間で商品化が検討されている車車間通信の機器に本成果が活用されている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)			
	所管府省・部局名	事業番号	事業名	
点検・改善結果	点検結果	本施策は、交通事故による死傷者数削減に資する車車間通信技術等の早期実用化を目指すものであり、国がやるべき事業である。請負先の選定にあたっては、複数の事業者への聞き取りを行って仕様を検討し、一般競争入札を実施するなど、妥当性・競争性を確保するよう努める。また、執行にあたっては、進捗報告の場を設定し、事業内容の管理・把握に努める。		
	改善の方向性	-		

外部有識者の所見

- ・事業予算が、26年度から27年度にかけて半減したが、28年度までの三か年にわたる本事業の行程表について説明が不足している。
- ・アウトプットとして、運営委員会の構成員数が記されているが、運営委員会をアウトプットにするのであれば、員数ではなくて、活動内容ではないか。
- ・豊田通商との契約に係る業務概要を見ると、プロトコルの策定も含まれている。当初に単年度契約の形で競争にかけているため、二年目以降は随契ということになるが、適切なライフサイクルコストを確保するため、入札・契約上、どのような工夫がなされたか説明が必要。

行政事業レビュー推進チームの所見

終了  
予定  
終了

平成27年度をもって事業終了  
更なる経費の効率化を図り、適正な予算執行に努めること。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

予定  
通り  
終了

- ・外部有識者の所見の1点目を踏まえ、26年度で実施した事業内容及び27年度で実施する予定の事業内容を備考欄に追記いたしました。
- ・外部有識者の所見の2点目を踏まえ、委員会の活動に係る指標は、報告書、ガイドライン等の件数を成果指標とします。
- ・外部有識者の所見の3点目については、事業内容の競争性及び透明性を確保するため、二年目以降も随意契約でなく、一般競争入札(総合評価方式)を用いて、契約者を決定しています。
- ・行政事業レビュー推進チームの所見を踏まえ、平成27年度においても、委託事業における調査項目の精査、複数者からの見積もり取得の徹底等、さらなる経費の効率化を実施します。

備考

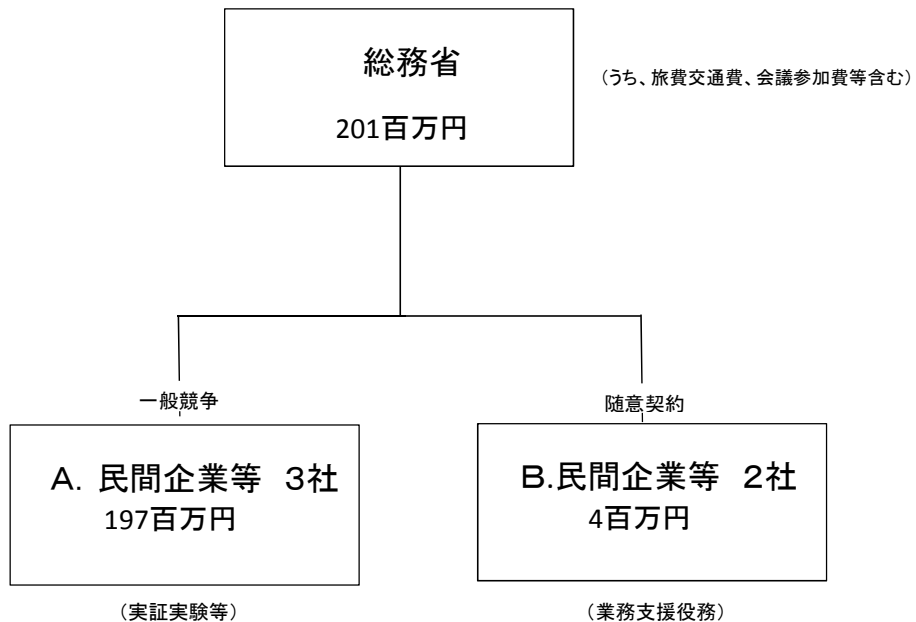
- ・26年度で実施した事業内容及び27年度で実施する予定の事業内容は下記のとおりです。
- 26年度:セキュリティ、相互接続等の通信プロトコルに係る検討及び実用環境を想定したテストコース等での実証
- 27年度:前年度の実証結果の通信プロトコルへの反映及びセキュリティ機能の更新手法の高度化に向けた検討
- ・28年度については、関連事業と一体化して予算要求することとしました。

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-
平成25年度	新26-0012	平成26年度	新26-0018		

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)



費目・使途 (「資金の流れ」に おいてブロックごと に最大の金額が 支出されている者 について記載す る。費目と使途の 双方で実情が分 かるように記載)	A.豊田通商(株)			E.		
	費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
	機器調達費用	実証実験機器調達 等	69			
	作業費用	調査・検討作業、実証分析作業 等	49			
	実証実験費用	テストコース利用料、車両レンタル、実験準備費用 等	36			
全体取り纏め費用	報告書作成、調査検討会運営、その他	34				
計		188	計		0	
	B.ITSJapan			F.		
	費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
	設営管理	フロア使用、ブース構築	3			
	計		3	計		0
費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載						<input type="checkbox"/> チェック

### 支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	豊田通商(株)	通信の信頼性、相互接続、セキュリティ機能を確保・考慮した通信プロトコルの策定	188	3	96.7%
2	アーツアンドクラフツ(株)	講演会の運営及び管理	5	3	100%
3	一般財団法人 海外通信・放送 コンサルティング協力	講演会への海外関係者の招へい	4	3	99%

B

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	特定非営利活動法人 ITSJapan	会議設営等	3	-	-
2	ピコインターナショナル(株)	パネル印刷等	1	-	-
支出先上位10社リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載					
<input type="checkbox"/> チェック					